

海防彙議二編

二

海外書冊

吉備兵法

和書門類	二四八〇號
函架	六七〇
冊架	一八三

內閣文庫	和書類	二四八〇號
函架	六七〇	一八三

內閣文庫	番號	和 24840
	冊數	18 (2)
	函號	189 397

001115



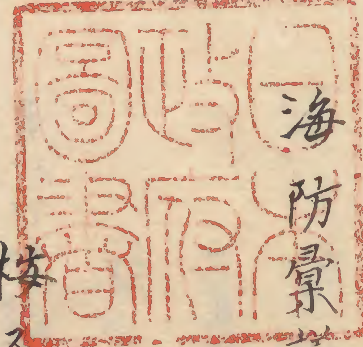
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



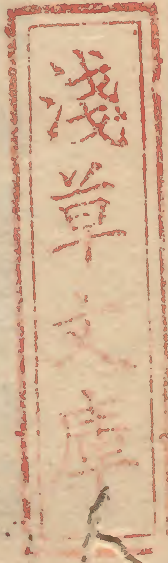
© Kodak, 2007 TM: Kodak





海防彙識二編卷之二

松園主人編纂



棲スルニ清英ノ戰鬥我ニ在テハ寔ニ般陸ノ
昭々タル者ニシテ宜ク此書ノ記載スヘキ
所ナリ前編之ヲ闕ク者ハ其繁重ヲ恐テ十
リ今長江貫カテ著清英合戦記畧ヲ載セテ
其概畧ヲ知ラシメテ要ス

近世法國と英吉利と合戦アリテ其濫觴を尋ルニ物
片煙交易の起リテ四年のるあるに及ニテ戦戦を略片と称

出物ハ多ク印即天竺之身毒乾毒地方日本書紀云罌粟壳の液与

一名ハ阿芙蓉又霞片日本書紀云之を煙管に加て吸ふ久

く積病林則徐と云病土記生生精神を耗し氣血を内塞て至

是志ひも度病之者された口後の慈眼りや

飽ふと云く日又一枚の鴉片を吸ふ者阿多至一旦氣

清涼して心少く安眠し流病乃痛苦也志多故一度吸ふ

者ハ口と離るる能はざる遂に性命を損ふ又至是

按スルニ阿片大毒アリ其功畧酒ニ似タリ故

ニ其服量度ニ過ル寸ハ人ヲシテ氣血ヲ壅

塞シテ腫死セシム清高周藹亭等カ具稟

ニ更可怪者唯貪口腹之爽利不顧害命之可

畏用者漸致憔悴終隕其命此事竟達睿聰云々

ト云へり成武紀ニハ日本ノ外国通商ヲ禁ス

ルハ此阿片煙ノ害ヲ防ク為ナリト推量セ

シモ理ナリ

痢字醫籍考フル処ナリ字書ニ之ヲ載セス

今按スルニ大孔雀朋玉經及ヒ心地觀經等ニ

載スル處瘡字ノ俗字ナラシ音義ニハ中

心病ト見ヘテ存ス所詳ナラス今經文ニ

乾テ考フルニ云世間之人莊嚴其身如彼彩

画不淨之器貪賄癡三名為心病風黃痰癆
名為身病内外六病能害身心卜痰癯二字
連用スルヲ見レハ乃今ノ痰飲ナルヲ明ケレ

民等之を嗜ム者二百余年之久きよ至リ人々之を吸者
者皆極々莫夫交易其身一とめて年々之を載せて大黃葉
黃金銀類ノ交易して其利を得る者數(乾隆年中法
其害を悉く商船のセムを禁せしむ或るは鴉片一子袋
を燒換へるも後も密ニ移入者此亦亦度大一年我文化元年
又も又ニ子二百函を燒換へたつ又近年莫夫の幣ハ北
アメリカの西印度新和蘭カリホルニヤ等此國々を切込へ法

國の東辺廣東又高麗也嘗ニ年々交易夥しく外玉の及ぶ

不非也乾隆の以廣東之事諸藩の商船一年僅又百艘に及印度地方より

產する所の鴉片也黠者のセム者愚民又勧めて交易する者年々

又倍せり既ニ道光十八年我天保九年イキリスの或る年二万七千余函翌

十九年ハ三万に及ぶ函又及不乾隆嘉慶の禁も此等又此等之民皆

悉くして交易する者之を山東の文官黃爵之とて不者

亦皆て鴉片の害を痛まざる者切之依て法を以て之を嚴禁

を下し百姓十人を保て名付一組とし其を以て味て若き同

人法を犯し鴉片を吸ふ者其姑ハ十人其罪を更鴉片を吸

更ハ煙器を貯ふる者ハ死刑ニ処せし是官吏を法を管束也

此等の届きざる者ハ其官職を去るなり又英夷の船主等最
令を以て鴉片を精海する事を禁制せしむ英夷の船主等曰く
依て禁めば其賣する者止む官吏の追捕者止む遂に其元
一罪を以て者後英夷の甲比舟恐れて血を戒め禁め
し其禁密賣する者多し河は年法又林則徐にして廣東
の総督とす則徐元より勇気にして英夷の詐を疑ひ上書し
て曰彼等携し其所の鴉片ハ人命を換害するの毒にして彼必
て之を禁めて吾邦へ携来りて我人民を害す吾等彼より
其所の所ハ大黃糸を以て彼の性命を助け一日も欠けざるの
所也 西洋人大黄を以て其所を以て
禁めて病を治する處方外記見 今は二所を以て治する

なくんハ彼必し其窮迫して和を乞ふべし若彼より我人時ハ
彼等特む其船の堅固なるを大砲を以て我人より其船の水
をよく泳ぐ者致百人を集り水練を習し暗夜の水中を潜り
其船を焚き又火船數百艘を用いて風を以て火を
起して焼くべし一と法を以て後 以上嘉慶英夷の事イキリス
語を附録 軍民の事
之を以て則徐鴉片を禁めざるを最嚴にす其高船の港内
あり其の二十余艘より其船を悉く以て焼くべし
一は度のを以て必殺して用候とす英夷其難保せしむ
則徐忽ち將士の命を以て港の出口を以て固め大砲を以て其
よ及に攻めんとす其用意甲比舟を以て其船を以て其船を
進

納す則徐を隠し終りしものたせさうり兼引きたる之を詰責
乃士を命して英夷の商館を以て困り飲食新水をも乏し甲比舟
を竊迫して遠く隠し去るの鴉片を悉く奪ひ則徐則徐を
收りし鴉片一万二百八十三函を焼捨ぬ愚民等も亦之を奪り
烟草を和し吸ふ者あり則徐軍士を命して去るを悉く海中
に投せしめハ英夷を悦びて亞媽港より出帆し外西の商船
も之を見て追ひ出帆し依りて廣東の商館より難く又土地の
人其生産を悉く奪りて人気が衰ふは亦しうり則徐又
外西の商船を呼ばし四のめく交傷し英夷の之を許さず英
夷の亞媽港よりあるを悉く諺を遣て亞媽港より鴉片の刻を

三より廣東より一亞媽港の土人密に鴉片を賣渡せし者數十
人を捕て死刑に処し又甲比舟を奪りて英人の密賣せし者を出し
せし罪を以て死せしと云英夷彼を以て強入りしを英館を以て
之を食物を以て英夷密に遁走して香港より則徐又海辺の
飛船を命して英人の上陸を許さず英夷亦く官吏を悉く
身指の志を起ししる

英夷亦く廣東の官吏を怒り憤り軍船二艘より廣東の港
に侵入す則徐も亦く之を許さず軍船三艘より大艦を以
て追ひし英船の大小の艦を打ち併し船三艘も打ち摧
き死傷夥し英夷軍を収めて香港より去る則徐再々侵さん

とて意を其後と嚴重して防中より引去るに伊斯把你亞の
高船一隻廣東の港に舟掛りて之を英船に見送て則徐徐
急に船対し船を燒んとすイスハニヤ船也いもよくぬりなれは
き思慮度と失ひ散りてお負ふに英夷其已り為に誤り難
と海を恤に援兵を以て亞媽港を引去せぬを後英夷の船を
獲密多智者軍船二艘大統五十挺を以て軍兵三百余人を
廣東の沖中より則徐我を捕りては高則徐の上島の多の英人の
身兼と神見すのふり廣東の官吏を去る不更封の修退けし軍船六隻と
高を連進獲密多の船端に之より廣東の軍士を我船に送る
ハ返り取んとするに法船を去りて大統を打放せり英船

の大統稠にして忽一隻ハ粉の如く打碎りて一隻ハ水に沈みぬ
史が軍又香港小我より度之毎度法人故水に英人ハ亞墨
利かの便船に付て和せざる甚切にされとる整ハ又英人の捕
りて法船より者を返さざるを去りて道光二十年
英船再び復來を法人火船を用いて燒討て其船送りて
法船忽ち火と成て死傷甚度同年五月廿日英船二隻亞媽
港より布冷里見と既見利阿多とを大船として大小船四十隻
ふひて舟山島を攻むは英人の英氣形を用ひ英船のロントガ一万三千三百
日ニ廣東に來ると去風の吹送抱く火氣を自由の
取法船残いれれて士民散り逃走りて島中一人もな英夷舟山
と根拠として島中の石塔を築集梅屋、蒸釜を留り後炮を

よ既り是ハ城中、居夜ハ船ヲ入テ侮をなすまの口方にて運送
の米穀と其ハ産物を掠り致し之也又各浦に押寄城を以
圍テ攻む城中も大銃を放ち英人九人を打殺し然レ遂ニ
城ヲ破り色殆んと為城ニ及んと其英素も軍を収めて
川邊を以テ外西の交易止く土民産業を以テ盜賊隊起し官
吏の命を用ひ其英人等印度よりカ法方の軍兵を遣し事侵
まんと其法を命と正し英船の大銃八十挺を掠り大船一隻を攻む
者ハ賞銀二万両英船の大船八討者ハ賞銀五万両と其英
賞銀亦あり英船布冷墨見ハ廈門に至り書を法陣に留り
法人拒んで其銃を打る船の此布冷墨見大に怒り舟山に

穿破舟小押寄港、侮り法船を打破り進んで城を以テ圍
法人畏く出て出た布冷墨見又書を法軍より上りんと其法人又
拒んで其書より流渡起りて英素病死者多しアメリカ
人又英素と争論の事起りて身命を法人に奪ふ事あり亞媽
港の通商を以テ切ら頼密多きを以テ廣東に船を以テ法
船を打破り既見利何多し又軍を以テ遼東に入上書の上
を以テ法に請善を乞ふ廣東に和を欲せんとも英人即廣東
省海、九月六日英船一隻寧波の餘姚縣に押寄大銃を
命に、英素已ち打出され後砲の余勢より船を掠り浅瀬に
掛りて法兵刀を以テ殺しける英素亦叶小舟にて逃る事あり

勇猛にして法兵四五人を切殺し、餘敵一本切折り、清兵後
より法を討つて倒して之を生捕り、日替に士卒千人を生捕り、
此女將の英妻の妹にして姉妹三人あり、姉ハ今の英皇之次ハ
如西より捕依し、弟ハ亦死すと云りて、法兵軍を叱り、
此女將之年十八、秘は見え、宮兒嬋妍なり。

梅スルニ英國ノ女將ヲ生擒セシテハ清高
等ノ具稟ニノミ見ヘテ諸書ニ考フル所ト
シコハ生擒ノ内ニ白夷ノ婦一人アリシヲ斯
潤飾シタルニテ信スルニ足ラス

英妻法人ノ書ヲ讀リ曰ク女將を逮メ、海峽ハ舟山の地を

過り、若し法兵にて殺せしハ國を擧て仇を報へ、是右の
女將ハ寧波府より禁獄せり、定海の欽差、伊里布、廣東の欽
差、琦名、英(と名残)に法兵の跡をも交して、女將を取
り、是れ英妻ホ元より詐偽多く、陽に退く、素仰て、兵、
船に伴ひ、法兵に法をばゆを、大に憤り、琦善、伊里布
等の官職を罷免、因興のせ、帝師より送る、逢冲、琦善ハ
繼て果し、又林則徐ハ、定海に大乱を起し、出雲の罪を、官
爵を奪り、伊里布ハ、滿人之妻人、後、罪を、阿、を、て、官、を、罷、免、す。英妻の横暴を憤り、
自ら親兵を以て、成敗を交せん、法兵皆皆、撓、恒はし
て、右、教、を、習、ひ、を、誅、す、之、を、止、皇、姪、錦、愷、祝、を、總、大、將、と、し

を襲討し押取し兵器宝火薬糧米を奪ふり山み如く
一入進んで寧波を奪法軍戦八日して逃去英夷去る不士民
急施し窮窘を救ひ人心を安んずる英人の軍艦ハ
水城を堅固に築く如く凡七百貫目集の大砲を數十挺
船後仕付繰り出し開放し其捷切破るる又相立し法人
之を傲りんとす兼て夷人或言曾西亞人土人の在りしは在り西洋乃
其法を奪ふとはなりや
法に依て銃を築き又蒸気船を製造され英人の精巧倭
捷ゆ及又英國乃水支賤民等を令帛を惜まらざる百幕
り隊に加へ大砲を打ちむるは一月二十余あるされ戦場
降へてハ皆逃去る今用之者迄能吾臥鳥古ハ舟山島に在り

杭州府を攻んとす時法兵能其事を破る英夷討て之を破る法兵
又寧波を攻め捕らんとす勝てて退き餘縣を破る英夷子
弟ハ蒸気船の事法兵必死に防戦右城焼るされ彼水に
丈夫英兵淺塘河を築きし各浦を攻むは地ハ繁昌の地はし
て城堅固之海軍より銃を奪るる亦く築無精兵
七万人且漢州降生人より固りは時英軍一隊ハ山に据り陣
を築一隊ハ船に止海陸より互に撃つ大砲を開放街中ニ相入る
漢州の伏兵街中へ起り互に心死し挑む英兵死傷甚多し
され大砲を繰り出し打ちし法兵遂に打負て散り逃去る
市中の子女水に投じ火に焼れて死者者數多し英夷亦もらく

是も揚子江を攻め、法王都より小糸を攻め、安
多下より五月廿三日、揚子江を砲撃、法人も砲撃、
城を捨て、逃走、法王都を退き、上海縣に攻め、
法王都の提督陳化成
戦死、法王都を攻め、又砲撃して、城壁山に
攻めて、因
めり、英軍一軍、城を攻め、八城外の兵を
あつて、法王都を攻め、城を攻め、
切て、法王都を攻め、城を攻め、
一軍、法王都を攻め、法王都を攻め、
奸民集、盜賊を招き、或は偽て官吏と稱し、
令行、法王都を招き、軍民を誘ひ、
人々を死せしめ、死せしめ、
士卒

ハ皆衣帯のり、備法をく、持ち、英人之を
法王都を攻め、法王都を攻め、
て、法王都を攻め、法王都を攻め、
能ハ、法王都を攻め、法王都を攻め、
大臣春英、伊里布、英妻の死、
喇嘛、法王都を攻め、法王都を攻め、
六百方、法王都を攻め、法王都を攻め、
利を加へ、法王都を攻め、法王都を攻め、
地を英領、法王都を攻め、法王都を攻め、
香港を永く、法王都を攻め、法王都を攻め、

醜。以至三年。以來逆夷恃其船堅砲利。由粵至閩。歷浙入江。擄我土地。戕我又武。淫我婦女。掠我資財。致使四省出民。慘罹鋒鏑。以至九重宵旰。信益焦勞。蓋暴其罪狀。罄河難窮。洗我煩冤。傾海莫益。實神人所共憤。覆載所不容。邇者江南諸省。事亦效粵東。故智甘為城下之盟。竭千萬氓。廣之脂膏。保一二庸臣之軀命。誠有如金犬理所羨昔。夫嘆夸不過荒外一島夷耳。其未勤勞數万里。其衆不滿數萬。我天朝席全盛之勢。滅此跋浪。公魔。何啻長風掃葉。奈何強

臣大師惜命。如山文吏武夫。畏大如虎。不顧國仇。民怨遽行割輸金錢。有更甚于南宋奸倭之所為者。此誠不可解者也。

又按スルニ和蘭風説書ニ清英和議ノ約定ヲ載ス甚詳悉ナリ左ニ録ス尚英國侵犯事畧所載ト對者スヘシ

又ケレス由ト唐必帝との名他 双方を以ての語を以て
大徳曆數千八百四十二年八月天保十三寅七月ニ當ル南京於て開平
大徳曆數千八百四十二年八月天保十三寅七月ニ當ル南京於て開平

天保十四卯五月五日 當 本ニコニ島又於て交換スル也

フリタマヤ^国名イールラント^国名の五^{エセス}國^{エセス}王^{エセス}と云々并ニ唐帝ハ友誼のるこ
 有遠互ニ仇敵を登^レ身^ニ法^ニ度^ニな^レ法^ニる^レを^レ極^ニる^レり^ニて然
 と改心彼双方目代の者^ニ命^シと云斗^テ即^チフリタマヤイール
 ラントの王方ハハロ子ツト^名の^名東^名印度^名の^名ケ子^名ラール^名マ^名見^名と云
 へシレイホツキゲル^唐帝^の方^を帝^の一^門として太子の後見
 廣東アルニスト^名輝^名船^名の^名ベ^名ユル^名ハ^名ツ^名ル^名名^名ホ^名ト^名ゲ^名コ^名ミ^名サ^名リ^名ス^名名^名と^名勒^名ケ^名イ
 一^ク人^名汝^名唐^名帝^の親^名族^名且^名又^名エ^名ル^名ス^名テ^名ラ^名ン^名ガ^名身^名ヲ^名筆^名友^名の^名微^名と^名して
 孔雀羽を免^レされ^ニニスト^名ル^名名^名コ^名ウ^名ル^名ニ^名ウ^名ル^名ゲ^名子^名ラール^名名^名と^名勒^名ケ^名イ
^名伊^名里^名布^名名^名と^名兼^名勒^名ケ^名イ^名エ^名レ^名ホ
 一^ニ以^レ斗^ハセ^レ但^唐方^目代^ハ毎^ニ斗^ハセ^レ斗^ハセ^レ極^ニ去^レハ^實ニ^之人^の

名判を以て記す

按スルニ伊里布滿洲人ニシテ清主ト瓜葛アリ
 故ニ爰ニ親族ト云ルカ三人ノ名ヲ記スト云
 一ルハ耆英伊里布ノ外ニ两江總督部堂井鑑
 ヲ加ルナ

一 双方の目代互ニ首領の上を極致合宜と謝後大に通合
 使を身一エケレス思と唐帝を外船方互に互民の安全を行
 証下の者^ニ至^レ思^レ和^ニ熱^ニ彼^ニ信^ニ義^ニ厚^ニと^レ彼^ニ子^ニ
 身ニエケレス思^レ下の者^ハ高^ニ貴^ニ彼^の志^ハ高^ニ貴^ニ川^ニ連
 各地仕領^ハ高^ニ貴^ニ東^ニ厦^門福^州寧^波上^海の^市

中々支自由、唐帝是免し、且又王ケ
レス王シユルイテテント役名又名コシユル名役名の役人と右場不
在任せし、唐方役人と王ケレス商人との言ふ法を、
法を、唐方を以て、唐方は、唐方の失費後、極右
の通を、遠王ケレス人、見届り、
身三王ケレス配中の者、船渡後、又、入用の為、
民出来、船場、唐方は、唐方の、唐方の、
唐帝は、唐帝は、王ケレス王、子孫、
彼を、彼を以て自由、支配、
身四三ヘルイテテント役名外、
王ケレス人、
八百三十九年三月

天保唐東、唐帝、言官、捕殺、
の為、
唐帝は、
身五唐東、
右の、
一、
三百、
レ、
身六、

者を暴して不宣を扱再後ち人々と希に余を正しス
まのり不宣を治すに由是是との出費債の爲唐帝千二百万
トルルスの高を是非に、そのの許美一、若右の千八百
四十年八月朔^{天保三} 丑六日^の後、去て不宣用、控て八唐正方中外の
場而も正しスの一、彼の幣を焼打て波交定給す
亦七系三ヶ系、そのせり、千二百万トルルスを割、この納り
六百万トルルル、即日納り

六百万トルルルス唐教子八百四十三^{天保三} 如年^の 納り

内
三百万トルルルス去身六月廿日^{天保三} 納残三百万トルル

去身十二月^{天保三} 納り
五百万トルルルス去身^{天保三} 納り
内

二百五十万トルルルス去身^{天保三} 納残二百五十万トル
ラルス去身十二月^{天保三} 納り
四百万トルルルス去身^{天保三} 納り

内
二百万トルルルス去身^{天保三} 納残二百万トルル
去身十二月^{天保三} 納り

右は言若難を納り、その利益を加へる

表通ふち抱ふりて法り双方を以てなりし通ふの
為稟問の語を古用せしむ。

才十二は左極の通唐帝納降^宣初の期日金子納
方未漸りり子速^宣上ケレ^宣軍勢南京長大河只川拂以朱ハ
唐少商賣、長陳^宣中^宣發^宣於^宣海^宣の陣^宣不^宣足^宣返^宣二^宣子^宣を
古根岐島^宣并^宣舟山島の^宣茂^宣ハ返^宣納^宣皆^宣候^宣、^宣於^宣法^宣卷^宣、^宣於^宣上^宣ケ
レ^宣南^宣賣^宣所^宣未^宣整^宣、^宣ハ^宣上^宣ケ^宣レ^宣方^宣、^宣於^宣去^宣り

才十三上ケレ^宣又^宣唐^宣必^宣遠^宣く^宣左^宣隔^宣ハ^宣大^宣也^宣、^宣次^宣才^宣上^宣ケ
レ^宣又^宣王^宣唐^宣帝^宣ハ^宣左^宣極^宣の^宣折^宣書^宣を^宣換^宣二^宣才^宣ハ^宣為^宣双方^宣の^宣月^宣代
とも右極の字、姓名を記し、調市(汝)を換せ法り、左極

の通り、^宣才^宣ハ^宣去^宣り

右通^宣南^宣京^宣、^宣於^宣唐^宣才^宣ハ^宣八百^宣四^宣十二^宣年^宣才^宣ハ^宣八月^宣才^宣ハ^宣天^宣保^宣三^宣寅^宣
唐^宣必^宣ハ^宣道^宣光^宣二十^宣二^宣年^宣七^宣月^宣才^宣ハ^宣上^宣ケ^宣レ^宣ス^宣の^宣リ^宣ニ^宣イ^宣軍^宣兵^宣コ^宣ル^宣ニ^宣ワ
ル^宣リ^宣ス^宣、^宣於^宣二^宣方^宣目^宣代^宣調^宣市^宣を^宣降^宣り

又弘化四年丁未風説書ニ

一 唐^宣必^宣と^宣上^宣ケ^宣レ^宣ス^宣必^宣と^宣和^宣睦^宣を^宣結^宣の^宣折^宣舟^宣山^宣ハ^宣戦^宣争^宣の^宣失^宣費^宣
續^宣の^宣為^宣償^宣物^宣と^宣して^宣去^宣降^宣、^宣右^宣續^宣の^宣年^宣限^宣を^宣降^宣て^宣和^宣蘭^宣曆^宣
才^宣ハ^宣八百^宣四^宣十六^宣年^宣才^宣ハ^宣七月^宣、^宣弘^宣化^宣三^宣年^宣、^宣舟^宣山^宣を^宣唐^宣必^宣ア^宣ウ^宣ト^宣リ
才^宣ハ^宣イ^宣ト^宣名^宣又^宣是^宣返^宣り

唐^宣人^宣も^宣已^宣う^宣方^宣才^宣ハ^宣極^宣の^宣約^宣定^宣を^宣以^宣て^宣、^宣才^宣ハ^宣上^宣ケ^宣レ^宣ス

玉并オーステンレイキまで月隔見居ル由、小笠

一 ドイツの医師ホツセル人スコニベイン綿硫黄スワリ硫ニエ酸ル
を儒常放祭の勢を保ルニ支を祭の法ハ綿を少小炮
ニ放ちハ丸燭硝を込祭々口極スル

又嘉永元戌申ノ風説ニ

一 唐必トエケレス西との引合々以秘、嘉永中唐東
の者外西人を悉一撥を起一ト

一 去来年十月、イエケレス西の差堂者六人、廣東近隣
の河に船控の者僧入校上陸、如徳堂の者六、数多押上、
殺害、其時唐東の執政ケインク石の者、其を罪ニ

意一罪也、イエケレスハ当是、其息氣を合居リ、
其

一 ケインク、イエケレス、去来年十月、大分、ホシコ、島ノ、イエケレス
西、向也、帆、後、如、送、凡、其、彼、西、之、忌、岸、一、船、く、を、扱、小
アメリカ洲、赴、去来年、五月、廿、二、日、ウ、オル、子、忌、船、南、年
二月、以、再、ハ、イ、エ、ケ、レ、ス、西、向、也、帆、船、ロ、シ、ト、ニ、忌、船、往、
一 唐、西、海、防、御、の、為、使、々、由、イ、エ、ケ、レ、ス、海、軍、た、と、通、

一 兵、局、を、救、ハ、船

一 ブリツキ 軍、取、種、の、名

一 ブリツキ

一 艘

一 艘 名、取、十、六、挺、使

一 艘 リ、ハ

一日

一フレカット 軍船二種
の名

一兵糧船

一蒸氣船

一日

一艘

一艘 名数
二挺

一艘

一艘 名数
半挺

一艘 名数
十挺

一ホニコニよて出板の只乞又記保ハ琉球島又此島外白人
彼地迄殺害ハ迄ハ極ハ此等ハ物大右記迄の琉球人ハ
兼テ温和の氣質ニハハ中殺害俾ハ迄ハ迄ハ
右風流ラタラシキ由ニ存ス

梅スルニ此琉球ニ在シ外国人ト云ハルハ弘

化元年ニ拂郎察ヨリ来レル噶尔咖助及
唐山人高隆二人力事ナルヘシ今薩列ヨリ
稟白テ左ニ録ス

私ハ琉球島の内那覇仲(高)三月十日迄船一艘漂来
卸破ハ舟漂来ニ迄ハ舟ハ此島ハハ言語文字不通
也唐人一人係紐居佛郎察の由ハ二言五十五歳ハ唐
島(古)海内帆ヲ洋中迄難船舟具古操一右修捕英
糧食亦亦及事忌致ハハ此ハ由テ石火矢銃砲諸
刀亦此の世ヨリハハ兵船ハ指子ハ迄ハハ是ハ船
具修補用ハ木并糧食用牛豚並菜亦亦及中ハ付

右ノ一巡船具修補ハ其由ノ大自今去調ハ右ノ右船
系改ノ佛郎西風ノ錢二百年来中必致通融未尚其概
係ノ佛郎西皇帝ノ命ニ受中必近隣ノ徳王ノ波
交通ノ為琉球ノ古ノ趣問答交易極盛ナリ其時琉
球王ノ美金神座相如ク勿論金銀銅鉄類ハ全無
ノ國極ニ一ノ由モ交易ハ亦其調極多ク其由一糸
兼知不波ハ其由其調ノリノ和を通ノ好之ヲ後中時ノ時
是又其由一ノ大落忌之ノ為進ノ彼王ノ大總兵船渡来
波身交易向ホ其ノ味来忌ノ上何分ノ波返其且
又右船ハ通約系在ナリ其由是又一人唐人一人殘島ノ

中船ハ一波出帆方ノ由者其由口ハ何分ノ交易ハ亦其
調込合止琉球ノ徳王原藩与彼必其度佳喇島通帆
係ノ猶手波身其由一交易ハ亦其成由端其由一人苗年其由不
其成趣通意其由是又其由如同十九ノ中船一波出帆方ノ由
係如口ノ南刺姑ノ橋船槽来其由一人唐人一人濱ノ節至
橋身ハ候ノ槽取ハ其由唐人ノ子細去身ハ其由大總船来其
ノ其由通約殘島其由系既ハ其由其由波中其由身其
以是又通約其由是又其由波中其由身其連日本船又
槽送レセシ其由其由内候モ入中船ハ亦其由見槽取ハ其
其由非近辺其由其由際其由其由其由其由其由其由其由

日夜勤敷中村三司官始在横濱云歸方中村也
始知同共通事唐人之以莫利因多年琉球之
心淨之也船渡是極の義以之佛耶西と波和好
得保護あり自今英方其奪の難茂之と戸
手上天主教を強て之波傳授を故孔孟の及を
以て天主教の中ハ難也との義高其新也夫之及
波疎之也而ハ傍を校之大徳船事志之良尚又難
可掛務放折角丁寧也其し之義其令海帆也
去年之任右舟之義其人夫之仰渡也通也年波
一交り之大琉球之義遠海古陽の編島之義万一

大徳船事志之良尚又難及之ハ現物
其身先ハ年穩之也斗也夫妻曲宮水之仕之琉球
舟之以來大徳船事志何所難浪中掛り何也
及和解之義其波海帆也之也斗也夫自能礼好
之及之編島之義以外之舟舟平日是後也
古之也斗也夫尚非也之也舟中舟也一徳之
一其海の良長徳也夫一妻曲中其也夫西元
中教の也波也舟中其の上

居八月十日

梅スルニ近來西洋ノ海舶多ク唐山人一

人ヲ裁セ漢文通用ノ国ニ到レハ先之ニ命シテ
事情ヲ通セシム必シモ譯司ヲ用ヒス慧照
ト云ヘシ全佛夷ノ書策ヲ左ニ録ス

昨日聚叙音語甚踈誠恐有遺故書此一本達
琉球国郡霸大人鄭仰為轉啓貴国大王願
大王千載竊思二百年以來我佛朗西皇上恒
与中国皇上和好常發船到中国以通盟近來
交接更切故其遣發戰船越多時令各戰船
總兵去中国隣近諸国者各國大王願与通和
結好往來貿易与否務要各國大王皆知其

心之所最要者或霸站或擾乱外國地方其心之所
好所慮者保護仁義公道成諸小者為大扶諸弱者
效強公義當要之時全力援助緣此本總兵嚶
尔烈略璞朗為与貴国大王和好奉令而來茲
者願見回話不及若無再三斟酌不得全美且
全不能久位於此數月之後大船有佛朗西大
總兵都督已來或將來各戰船貴国大王回彼
之意可也然則那位大總兵到貴国通事要
緊余奉彼將令尔佛朗西執事嚶尔咖助全副
通事澳五思且在貴国仰惟照拂一二勿致日

用有缺諸凡所費公道給還貴國律法恪遵之
前日荷惠嘉貺忱慨之意深感不已但公欲買甚
多祈大人仰着一忠直之人以便辨買或牛羊
或猪魚或雞鵠等類值價若干列單開計一并
送上此係佛朗西與外國人交接的常規連
綿暴風辛苦我後事副使們欲入我去如中國
皇上曾屢次許入去一樣上岸遊獵之事以荷見
允遊獵之時勿致擾動貴所官長曾蒙見諾
着人代辦本料共圖形照昨日字上所載可也
三月十四日是我國皇上的慶期依規矩豎滿

旌旗於午後親放七炮以為慶嘉之儀預報
大人如百姓驚懼余等不放亦可是日畧治一盃敢
邀貴所大人下屈敝船一叙時在午後四下鐘
即未時初幸祈早臨佛朗西第一號戰船總
兵噶爾列略璞朗頌候迨社
救世一子八百四十四年亞物尔月三十日

○琉球國中山府布政大夫向永保上佛朗
西第一號戰船總兵噶爾列略璞朗書
具稟琉球國中山府布政大夫向永保為大
邦之命可長小邦之情願遠乞垂憐恤以免

貿易事批那霸官鄭良弼稟稱奉拂蘭西總兵
大人鈞諭要與琉球通和結好往來貿易宜斟酌
回話等因理合稟明等由前來伏念貴國要為貿
易實出于信睦之至意易勝感激但敝國僻處海
隅土瘠地薄粟穀稀少更無金銀銅鐵奉國士
民日食難續器具不備自古交通度佳喇島以
我國所產粗貨貿易彼島米穀諸物聊得濟用
一逢風旱產物缺乏不能如意交易乃復多貴
國貿易實非國力可及況且敝國素係清國屏
藩世襲王爵代共職貢凡所行大事不敢自專

是以上屆癸亥下酉壬辰等年有孟牙利亞米理
幹英吉利三國船隻來到敝國要為貿易之時
披陳前申共行請辭仗乞總兵大人洞察事
情大岳洪慈恩免通和結好往來貿易仍回國之
後婉為轉奏恩准所請則奉國官民千秋萬歲
焚香頂祝矣切稟

道光二十四年三月十六日具稟琉球國中山布政
大夫向永保

附片

總兵大人要令通事二員留在本地一案查啟

國從未未有他國人員下陸淹留且多蠻烟瘴
氣深恐諛二員淹留之間或水土不服或冒瘴
氣甚有不便祈為電照

○佛朗西第一号戰舟經兵燹未烈略璞朗為
照覆幸昨荷未文各色礼物深惑不已照得貴
國中山府布政大人所念我國欲通商笑出和
睦之意甚為理當本總兵察貿易往來要兩各
沾利益甘心情願方可得成此為禮義當然禮
義之屬余不欲傷故余回國之日代貴國轉
奏伏乞我皇上恩准所請另將貴國慷慨之心

如何勤勞以助日用諸凡所費不顧計數一概奏
明想我皇上必然令名戰船之總兵體照貴國如
賓用一樣至論留余國執事嚶尔咖助左副通
事澳吾思且右貴同既蒙不却曷勝忻喜至論恐
其不伏水土或冒炬瘴皆貴國美意然不可不
知我佛朗西之律凡奉將令不得不可不行不
然何以復命不見允余亦心留必苦貴處余
亦先已苦矣是以明日送彼二位上岸仍仰
貴國照拂後日如天時爽晴余即起程不得
面辭近祉

BOOK 1

1875

